6年1組 図画工作科学習指導案

平成30年10月23日(火) 13:05～
場 所：工作室 （南舎3階）
授業者：長田 智子

（1）ねらい　光や材料に触れて，いろいろ試しながら，自分の考えに合う形をつくる。
（2）評価規準　光の効果を生かし，見通しをもって形をつくったり，材料の組み合わせ方を工夫したりしている。【創造的な技能】
（3）評価方法　光の効果を試し確かめながら，色を塗ったり，光の効果のある材料を組み合わせたりして，自分の願う作品に近付いているか見届ける。

1 題材名

『光のアクアリウム』

【A 表現（2）立体に表す】

2 指導の立場

（1）題材観

高学年の児童は，他者を意識し始めるようになるため，材料を駆使して人と違った表現方法を好むようになる。こうした自己表現の欲求を満たすために，光を通す様々な形の材料（プラスチック容器）を使って，組み合わせ方を工夫したり，形を変えて表現したりできるようにする。また，できた作品を自分の部屋に飾るという目的意識をもって題材に取り組ませることで意欲的につくり出す力を育てたい。

（2）児童観

（3）指導観

本題材では，「いろいろ試しながら，自分の考えに合った形をつくる」ことを大切に追求できるようにしていきたい。

また，作品をつくっていく中で，仲間からの客観的な意見を聞きながら，自分の作品を改善していく活動を取り入れていく。その際には，より児童に交流の必然性をもたせていくため，①製作の前の課題づくりでの交流，②製作中の自然発生的な交流，③単位時間の終末での交流，をねらいや児童の学習状況をみながら位置づける。本時は①②を用いて，自分の想いや願いが表われる作品になるためにどのような仕上げをしていけばよいか，一人一人が課題意識をもって製作できるようにしていきたい。

光の効果を確かめるために，段ボール暗箱の中に自分の作品を入れて，仲間と見合う場を設けることで，児童間で自然発生的に交流が生まれるように環境面を工夫する。

3 本時の展開（7／8）

	学習内容および学習活動	指導・援助（★高め合うための指導・援助）
つかむ	**1 自分のつくりたいアクアリウムについて，グループで交流する。** ・ワカメの林みたいにしたいよ。そのためにペットボトルに縦に切り込みを入れたよ。 ・ゴツゴツの岩や珊瑚をつくりたいよ。そのために卵パックの丸い部分を貼り合わせたよ。 **2 教師の示範作品から本時の見通しをもつ。** ○資料や示範を見てよりよくする方法がわかり，製作への見通しをもつ。 ・色が付くとにぎやかになってきれいだな。 ・色セロハンを貼るのもいいなあ。 ・ビーズがついていて，光に当てるときらきらしそうだな。 ・ビーズやスパンコールなどをホットボンドで接着できそうだな。 ・自分の作品にも色や飾りを付けたいな。 出来上がったアクアリウムに色や飾りを付けて，もっと光り輝くアクアリウムにしよう。	＜3つの見届ける－**実態**を見届ける＞ ・前時の振り返りや作品から，どうすればさらに願いに近付くか，傾向をとらえておく。 ★教師の示範作品を鑑賞する活動から，自分の作品をさらによりよいものにするために，どんなことをすればよいのか，仲間の意見を聞いて課題につなげる。 ・形にこだわってきた作品に，色や飾りを付けることで，さらによいものにすることを確認する。 ・作品のでき映えだけでなく，自分の願う作品に近付けることを確認する。 ・一人一人の課題を仲間に伝える。さらに共通の課題をつかみ，課題意識をもてるようにする。 ・示範作品をもとにした，仕上げのポイントをわかりやすくした資料を提示し，課題解決のための見通しがもてるようにする。 ・示範をいつでも振り返られるように，それぞれの技法のポイントを板書に位置づける。
深める	**3 仲間と意見交流をしながら，色を付けたり，飾りを付けたりする。** ・油性ペンで色を塗るといいんだな。 ・色セロハンをギザギザに切って貼るのもいいな。 ・ホットボンドでビーズを付ける方法が分かったよ。 ・アルミ箔をまるめて付けたり，シワシワにして貼っても，光が反射して面白いね。 **4 段ボール暗箱を使って，装飾の効果を確かめる。** ・製作が順調か気になるときには，段ボール暗箱で光り具合を確かめる。 ・段ボール暗箱を利用するときには，一人で使わず，必ず1人以上のグループの仲間と共に見て，アドバイスをもらう。 ・順番待ちをしているときにも，仲間の作品をのぞいて見てよいこととする。	・個人追求の時間として，一定時間を確保する。 ★製作したり，効果を確かめたりすることが，グループ内で自由にできるようにする。 ＜3つの見届ける－**学習状況**を見届ける＞ 個の実態に応じた指導・援助 活動の手が止まっている児童：作品に込めた願いを確かめ，必要な仕上げ方を示す。つまずきを聞き出し，支援する。 仕上げがうまくできない児童：そこまでの追求を認め，選んだ技法のやり方を詳しく示しながら説明したり，仲間の製作を見に行くように勧めたりする。 製作が進んでいる児童：ここまでの製作のどの部分が素晴しいのか詳しく認め，さらに自信がもてるようにする。 ★困り感や表現に自信がもてない児童には，段ボール暗箱を利用することを勧める。段ボール暗箱には4カ所ののぞき穴を作り，複数の児童で同時に覗けるようにし，自然発生的に関わりが生まれるように工夫する。
まとめる	**5 自分の作品をiPadで記録し，前時と本時を比べながら今日の振り返りをする。** ○本時の学習をワークシートに記入して自己の変容や高まりを確かめる。 ○教師が抽出した作品を見て，表現の変化を確かめる。 色や飾りを付けることで，とてもにぎやかで楽しい雰囲気のアクアリウムが完成し，今度はみんなで光らせて，見てみたいな。楽しみだな。	★ワークシートの視点に沿って，自己の変容を評価する。 ＜3つの見届ける－**定着状況**を見届ける＞ ・3つのポイントに当てはまる追求を紹介する。 ・表現のよさだけではなく，作品に込めた願いにどれだけ近付いたのかを自覚している振り返りを評価する。 ・仲間と関わり合う中で学んだ表現方法を紹介し，高め合えた喜びを共有する。

4 研究内容との関わり

【研究内容Ⅰ】

②導入・課題化の工夫

一人一人が見通しをもって製作に取りかかれるように，視覚資料等を用いて資料提示する。

あらかじめ示範を見る子どもの場所を決めておき，どの子にも見やすくなるように配慮する。

どうすればもっとよくなるかと考えている児童にとって，本時の見通しをもちやすくするために，導入時に仲間のアドバイスを聞く関わり合いを位置付ける。

【研究内容Ⅱ】

③活動形態の工夫

作品をつくる形態は，グループを母体とする。それは生活を共にし，何でも言い合える仲間であるからである。そうすることで作り手の願いに寄り添い，ポイントを絞ったアドバイスができると考える。

①関わりへの必然性を生むための工夫

段ボール暗箱を設置することで，交流やアドバイスが必要な子が，自分から求めていきやすくする。製作を続けたい子の手を止めないようにしていくが，求められれば，アドバイスをするように促す。

【研究内容Ⅲ】

①評価の工夫（自己評価力の育成）

自己評価のカードは，視点に沿って振り返られるようにする。

せ･･･精一杯取り組めたか（意欲）
い･･･いっしょに　仲間との関わりを通して高まり合えたか
か･･･鑑賞　自分の作品を見て，感じたこと，自覚した変容

振り返りを書く前に，作品をタブレット端末で撮影し，記録して前時までの作品と比較できるようにする。それにより，自己の変容を実感できるようにする。